

ばってん

事務長会報第35号

平成26年3月31日

長崎県公立学校事務長会
長崎西高等学校内

〒852-8014

長崎県長崎市竹の久保町12-9

電話 (095)861-5106



ホテル **セントラル長崎**

TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

事務長会ホームページ開設に携わって

副会長 (長崎鶴洋高等学校) 丸 野 肇

委員監査も終わり、依頼を受けていた原稿を早く終わらせて、正月を迎えたいと思いパソコンに向かってます。会員として昨年度までずっと係わってきた事務長会ホームページ（「HP」）について書いてみたいと思います。ということで、事務長会HPの会員のページを覗いてみたら、会員ページへの訪問者が7000近くになっていました。現在のHPを開設したのが、たぶん平成19年12月頃だったと思いますので、約6年間でこの数字となりました。数としては決して多い数ではありませんが、開設してからの2年程は訪問者も少なく、こんな数になるとは思えませんでした。

振り返ってみると、平成18年4月に事務長会会員となり、HPの担当となりました。ただし、パソコンに詳しいわけではなく、ましてHPなど全くわかりませんでした。ただ先輩事務長の指示に従うだけです。当初はHPがどのような構造になっているのか、何処にあるのかさえ判りませんでした。まずはファイル転送ソフトで「FFFTP」というがあるので、それを使用し、先輩事務長が試作していた事務長会のHPから、データをダウンロードすると言われました。そこで、HPとの接続を試みましたが、インターネットの設定がうまくいかず、なかなか接続できませんでした。自分で解決するのは無理だと思い、商業科の先生に御指導を受け、何とか接続することができました。

そうこうしているうちに、先輩事務長より、HPを作り直せ、画面を分割して見やすくしろ、リンク先からリンクの了解を取れ等々の注文を出されました。そうした注文に何とか答えるために、ホームページビルダーの本を数冊買い込んで、勉強です（本を買っただけで勉強したような気になるのは私だけでしょうか）。

まず、表を作るにも表の作り方がわからない。セルの中に文字を打ち込むと、かってに行の高さや列の幅を調整する。また、色の付け方がわからない。やっとの事でページ（ファイル）を作成しアップするが、アップができない等、いろいろ苦勞させられました。試行錯誤のすえ、試しに自校事務室のHP（無料）を作成し、インターネット上にアップしてみました。意外と簡単にできたように記憶しています。ただし

問題点も出てきたので、作成する上で次のようなことを決め、修正にかかりました。

第一に、とにかくHPはシンプルにする。HPビルダーにはいろいろな動画・写真等が用意されていて、最初はおもしろくてそれらを使用していたが、見栄えはいいが容量が増え、ファイル数も増える（一つの画面で思った以上のファイル数となる）ためファイル管理がややこしくなる。そこで、HPは、見栄えよりも見やすくシンプルなものにする（できるだけスクロールしないで見られるようにする）。

第二に、事務長会のHPは対外向けではあるが、それほど見る人はいないのではないかと。せっかく作るのであれば利用できるものを作成しようと思い、会員専用のページを作成することとする。

第三に、後々ファイルの管理がしやすいようにフォルダ管理とする。また、画像ファイルは、別途フォルダを作りそこに集めるようにする。

試行錯誤しながら、やっと作り上げて、アップしたのが12月頃だったのかなあ・・・、実際に事務長会の会員へ公開したのは、翌年の1月か2月ではなかったかと思っています。前述したとおり、当初は訪問者も少なかったのですが、最近では訪問者も増え、皆さんに利用されるようになってきました。ただ、途中で掲示板を入れるとの注文があり、掲示板を作ってみました。これはほとんど利用されることなく消え去りました。その後、容量オーバーが見えてきたので、レンタルサーバーへの移し替え等を行い、今は訪問者として、利用させていただいています。

最後に、現在の担当者の手腕により、掲示板が復活しています。情報の共有化、疑問・疑問への回答等利用いただきたいと思います。時間に余裕があるときは、是非掲示板をのぞいて、助言又は好き勝手なことを書いてください。とりあえず何か書いてみませんか。



「実感！ 少年老いやす〜」

波佐見高等学校 森田 春生



学生時代(22才)にタイムスリップしました。

浅田真央選手の演技に感涙したソチオリンピックも終わり、世間は少し気が抜けたような感じですが、学校はこれから卒業式、入試、人事異動と1年のうちでもっとも忙しく、気を緩めることのできない時期となってきました。このような思いも今年限りと思ったら寂しくもあります

が、38年間なんとかやってこれたのも皆様のご指導ご支援のおかげと感謝の思いが先に立っております。

私は昭和51年4月、大村市にあります県立ろう学校で事務職員としての第1歩を踏み出しました。昭和51年といえばモントリオールオリンピック(夏季)が開催され、体操競技でコマネチが10点満点を出したり、日本女子バレーボールチームが金メダル、昨年柔道連盟のごたごたでマスコミにたびたび登場した上村春樹氏が無差別級で金メダルを取っています。また、田中角栄元首相が逮捕されるというロッキード事件の渦中で「三角大福中」という文字が飛び交っていましたよね。当時は2年前のオイルショックの影響で高度経済成長も終わりを告げ、ガソリン価格も118円/ℓ前後でした。現在よりも安いようですが、初任給が確か77,300円でしたので感覚的には今の倍以上かなと思います。

みなさんご存じでしょうか、ヤマト運輸(当時は大和運輸)が宅急便を始めたのはこの年です、また現在も続いている

「徹子の部屋」の第1回放送もこの年です。

その後、佐世保養護学校、大村園芸高校、大村高校、波佐見高校、佐世保中央高校(定時制夜間部)と勤務しまして、中五島高校へ事務長として赴任し、現在の波佐見高校で定年を迎えることになりました。今も気持ちは写真の頃と変わっていないつもりですが…。

新任のころは電卓も有線卓上型ではありましたが普及してきており、給与支給についても電算処理が導入されて、当時の先輩方から「あなたたちはいい時期に事務職員になった、いままでは年末調整の時期は毎日遅くまで残業続きで大変だったのよ」というような説教をいただくこともありました。電算化しつつも職員数は変わらず、ゆったりした毎日でしたので事務室内のコミュニケーションも昼・夜と充実していました。現在は職員数も減り、電算化また電算化で、パソコンに追いかけられるような毎日で日夜悪戦苦闘しているような状況となり、当時とは隔世の感がします。15年くらい前「ドッグイヤー」という言葉がありました、今はなんとという言葉があてはまるのでしょうか…。

自分で考える能力が低下してきている、またスケジュールに追いつかされて間近にあることしか見えなくなっている。「何もすることがない時間、何もしない時間が必要」とは先日行いました学校評議員会での地場企業の経営者の方の言葉です。

どうかご自愛のうえ、何もしない時間を創り出し、新しい学校づくりの中心となってご活躍されることを願っています。

挨拶と作文が不得手なため、とりとめのない散文となってしまいました。ここまで読んでいただいた方ありがとうございました。またお疲れ様でした。私も疲れたのでパソコンを閉じます。

単身赴任に思うこと

五島南高等学校 尾嶋 和則

この度の異動で20数年ぶりに島で生活することとなった。もちろん単身赴任である。単身赴任と言って思い起こすことは何ですか。引越しそれとも住居。いや勿論仕事のこと。いやいや男にとっては一番気がかりな食事であろう。

初めての島は赴任2校目で上五島であった。20代後半まだ独身であり大学時代の一人暮らしの思い出が若干残っていたため、何とか生活できるだろうと楽観的であった。その当時私は有川に住んでいましたが、スーパーは6時頃に閉店していたため、平日にはまず買い物が出来なかった。それに、若い頃は食べることより遊ぶことが優先で、テニスをしていた私は、帰宅途中コートでプレイしている姿を見ると、食事を取る間もなくコートに直行し9時までプレイする。当然お店が開いていないため、夜の食事は屋台のたこ焼きとビールという夕食の日が月に何度もあった。若いって良いなと思うのは、楽しいことがあれば食事は二の次。どうにかして生きていけることだ。

その後結婚し、今日異動するまで全くと言って良いほど食事を心配することもなく、また殆ど作ったことがなかったため、前任校では不安な私を心配して、饅頭別に簡単レシピ本を沢山いただいた。食べることしか楽しみのない今の私は、福江の便利さに大変感謝している。異動当初は単身赴任のわびしさを感じていましたが、今では久々の開放感を味わう余裕が出てきました。

それでは我が高校についてちょっとお話しします。五島南高校は、福江から約16km離れており三井楽町寄りの岐宿町川原(かわら)に



魚津ヶ崎公園

あります。近くには風光明媚な魚津ヶ崎(ぎょうがさき)公園。



魚津ヶ崎公園・遣唐使船寄泊地碑

人の心を惹く白い建物の水の浦教会があり、学校周辺は小高い山に囲まれて、目の前には田んぼと入江に注ぐ川があります。以前は、学校の目の前で白魚やウナギがよく捕れたそうです。

ちょっと足を伸ばすと、有名な高浜海水浴場や大瀬崎灯台があります。

そんな五島南高校は、昭和25年に五島高校の岐宿分校としてスタートし、昭和42年に五島南高校として独立しました。もうすぐ50周年を迎える伝統校です。多いときは400人以上の生徒が学んでいましたが、島外への人口の流出により、現在は、6クラス130人を切る小規模な学校になっています。



学校風景

五島南高校には不思議なことがあります。6月頃から10月頃にかけて、カニがウジャウジャと校舎に出没します。廊下は勿論、部屋の中まで入ってきて、うっかり踏みつけるやら、バックに入ってくるやらで大変なんです。多い時は、朝から廊下になんと数百匹のカニが、インバーダーゲームの宇宙人のように迫り来るではありませんか。(>_<)解錠から1時間も経たないうちにどこからこんなに…。これは珍百景に投稿しなくてはと思わせるほどの光景です。ちょっと興奮気味になりましたが、そんな学校で早1年を過ぎようとしています。

来年度は、五島でも国体競技があります。地域の方々とももっと密になりながら、五島南高校の発展のために尽力していきたいと思っています。

皆さんも五島にコンカナ。待っています。

小値賀島に赴任して

北松西高等学校 亀井賢次

北緯33度11分30秒・東経129度3分30秒の小値賀町・北松西高校に新任事務長として赴任して、あっという間に1年近く過ぎました。私にとっては4回目の島勤務で初めての五島列島勤務です。平戸出身で、すぐ海が見える環境が当たり前で勤務してきた者からすれば島の規模の大小はあっても、すぐに馴染むことが出来ました。片道3時間30分のフェリー移動も、冬場の玄界灘の揺れを経験した者からすれば全く気になりません。元々の田舎育ちが幸いしているのだと思っています。

本校は、昭和24年8月に平戸高等学校小値賀分校、昭和25年4月に佐世保南高等学校に移管され同校小値賀分校、昭和30年4月に定時制独立校として発足・長崎県立北松西高等学校と校名変更し、途中、電子科・家政科の設置と募集停止を経て、現在は3学年で5学級・生徒数57名の学校規模です。

また、町内の小学校、中学校、高等学校においては、少子化・過疎化の影響で年々児童生徒数が減少し学校教育そのものの存続が危惧されるなか、平成20年度の小値賀地区小中高一貫教育の本格実施を受け、校種間乗り入れ授業や合同行事（中高合同体育祭）等を通じて小中高の連携を深め、多様な進路希望を持つ子ども達の一人ひとりの夢の実現が図れる教育環境を12年間の一貫した流れの中で構築しようと島全体で取り組んでいます。

次に小値賀町の紹介です。小値賀町の観光は、恵まれた自然を活かした体験と、農業・漁業等を舞台とした交流を通しての活性化を図る「体験型ツーリズム」をキーワードに事業を展開しています。海を活用した観光は「ブルーツーリズム」、農業を活用した観光は「グリーンツーリズム」、自然体験は「エコツーリズム」と称されていますが、小値賀町ではこの

全てが体験できる、島暮らし体験型観光「アイランドツーリズム」として推進されています。

この事業の推進のため「NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会」が、島全体のツーリズム事業を实践する組織として平成19年に誕生しました。このNPO法人が行う各種体験事業と地元町民との交流の民泊事業は、自然に溢れ・人情味豊かで・おもてなしの島としてメディアなどに注目され、オーライ！ニッポングランプリ（内閣総理大臣賞）をはじめ、JTB交流文化大賞、グリーンツーリズム大賞、エコツーリズム大賞特別賞を受賞するなど、地域活性化の切り札となっています。

また、本島の東に位置する野崎島は、自然を満喫できる癒しの島として、廃校となった校舎を改修した宿泊施設「野崎島自然学塾村」を中心に手付かずの大自然が人気を呼ぶとともに、世界遺産暫定リスト入りした「旧野首教会」のたたずまいが魅力を集め、1年を通して多くの観光客が訪れています。

今回、このような自然豊かな地で私も初めての単身赴任生活ですが、小値賀町ご出身の先生著の「島の賦」に挿入されている小値賀島の風景写真を探して見て回ること、高校時代にかじったテニスを再開して健康な汗を流し、釣り以外の趣味を楽しみながら2年目の小値賀暮らしを楽しもうと思っています。

小値賀に興味がある方はご連絡ください。いつでも観光案内します。



東シナ海の夕日

壱岐の島に3年！

壱岐高等学校 北川和広

壱岐は、東西約15km、南北約17km、車でどこに行くにも20分あれば足りる島である。その壱岐に来て3年が経過しようとしている。

平成23年4月に長崎県埋蔵文化財センターに赴任し、2年間勤務の後、昨年の4月から壱岐高校にお世話になっている。仕事では、壱岐在住の握手の好きな前任の〇事務長さんに、いろいろご指導いただきながら悪戦苦闘しているところである。ところで、壱岐の島を少し自慢したい。

一つ、壱岐では古墳が256基確認されている。これは、本県に存在する古墳の実に60%以上を占めることになる。古墳は、石室の上に土を盛って造った円墳が主流である。それらの中に、長崎県最大の全長91mの前方後円墳「双六古墳」がある。20年程前に、熊本県山鹿市にあるチブサン古墳を訪れたことがある。壱岐にそれに匹敵するような古墳が存在することに驚くとともに、古くから大陸との交流の中継地として繁栄していたことを物語る証となっている。

二つ、壱岐といえば、麦焼酎がうまい。壱岐の焼酎の歴史は16世紀まで遡り、麦焼酎発祥の地と云われている。平成7年には、WTO（世界貿易機関）の「地理的表示」の指定を受け、世界が認めた産地指定酒となった。蔵元は島内に7つあり、その伝統と製法が守り続けられている。現在では、どの蔵元も工夫を凝らした焼酎造りに励んでおり、愛飲家の喉を楽しませてくれる。

三つ、1年中、いつでも釣りが楽しめることである。壱岐は概ね丸い島である。そのため、北の風が吹いても、南の風

が吹いても、釣りのできるポイントがある。自身の釣果でいうと、春のヒラスズキ、ミズイカに始まり、クロ、アラカブ、タイ、夏は赤カマス、カンパチ、秋はミズイカ、ヤズ、数は少ないがヒラスetc。また、いつでも釣れて美味しい魚がアジである。サイズは大きくなったり小さくなったりするが、1年間楽しませてくれる。釣り好き、魚好きにはたまらない島である。

最後に、学校の話も少ししたい。

壱岐高校は、創立104年目を迎えた歴史ある学校である。国立大学進学から就職まで幅広い生徒の進路希望に応えるべく、先生方は日々遅くまで頑張っている。早く帰る私にとって、頭が下がる思いである。また、校舎は、平成14から17年度にかけて改築工事が行われ、太陽光発電システムの設置やエレベータースペースの確保など、新たな試みの施設となっ



壱岐高校外観

ている。なお、個人的に驚いたのは、各階に障害者用トイレが設置されていることである。今は、生徒指導上の理由からその多くが使用禁止となっているが、県下でもこれだけ多くの障害者用トイレがあるのは本校ぐらいではないかと思う。当時の建築に携わった職員の熱い想いが感じられる。

最後に、新任事務長としてこの1年間、**出来た事より出来なかつた事**の方が多かったと反省している。新年度は、逆転を目指し頑張りたいと思うこの頃である。



感動をありがとう

教育庁学芸文化課 全国高総文祭推進室 室長 田中 慎一

「長崎の高校生の底力を感じさせるものでした。素晴らしかったの一語です。」

「高校生のさわやかな大きな声の挨拶が印象深く心に残りました。」

2013 長崎しおかぜ総文祭に全国から寄せられたアンケートの声です。

記録的な猛暑となった今年の夏、長崎の高校生には、更に熱い想いがありました。7月31日から8月4日までの5日間にわたって県内15市町で開催された、第37回全国高等学校総合文化祭（2013 長崎しおかぜ総文祭）は、全国から12万8千人の参加者等を得て、大きな感動とともに終了することができました。

この大会には県内だけでも約2,600人の参加生徒の他、6,200人に上る高校生、教職員に運営スタッフとして御協力を頂きました。その他、会場を飾る花の栽培や、空港や駅の案内所の製作など、県内すべての高校、特別支援学校高等部の生徒たちが、準備から本番終了まで活躍してくれました。その裏で、事務室の皆様には、学校での事務処理等に大変な御苦勞、御尽力をいただいたことと思います。改めてお礼を申し上げます。

さて、この総文祭の総合開会式、パレード、24の部門大会のどれかを観覧いただく機会があったでしょうか。手前味噌になりますが、どれをとっても、長崎らしさに溢れた素晴らしい大会となりました。しかも、どの会場でもたくさんの観覧者の方が、最後まで席を立つことなく観ていました。私にとって、これがなにより嬉しいことでした。

高校文化部の活動というのは、一般の方はおも

ろん、意外と学校の中でも認知する機会が少なく、スポーツに比べると地味になりがちです。長崎しおかぜ総文祭も、はじめの頃は知らない方が多く、どうやって興味を持ってもらうかと苦勞する日々が続きました。しかし、開催日が近づくにつれて、生徒たちからも、自分たちの大会は自分たちで盛り上げるんだという強い決意が伝わってきました。それに歩調を合わせるように、地元マスコミ等も積極的に取り上げていただき、長崎サミットプロジェクトで企画していただいた「高校生に光のおもてなし」など、県民をあげて応援しようという体制になっていったのです。

その結果が、冒頭のアンケートに現れたのかなと感じています。そして、この素晴らしい長崎の高校生たちを育てたのは、それぞれ、学校現場の教職員の皆様の力なのだ、と改めて認識させられた大会でした。

総文祭の準備の中で、生徒たちは「文化とは何か」、「長崎から伝えたい想いとは何か」常に問い続けていました。その結晶が総合開会式のステージであり、部門大会の生徒交流会や、「鶴ばおろうで」という生徒実行委員会企画等になっていったのです。私もこの2年間、文化とは何かをずっと考えていました。「文化とは心の豊かさ」、「文化とは人とつながること」、「文化とは多様であること」、「文化とは未来への糧」いろいろな定義がありますが、「高校生の文化の力」はとんでもない力を秘めています。この生徒たちと一緒に仕事のできた幸せを胸に刻んで、私たちは、長崎県の文化活動の新たなステージに向かいます。



編集後記

消費税が8%に上がり、今まで以上に予算の効率的執行を・・・と学校現場も厳しい状況が続いています。また、10月には、「がんばらんば国体」等も開催され我々事務室職員が余裕を持って仕事ができるようになるのいつのことでしょうか？

本号では、今春めでたく御勇退される森田事務長さんに執筆をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき誠にありがとうございました。

また、新任の事務長さんも、無理なお願いにもかかわらず寄稿いただきました。今後もよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回、お忙しい中本号への寄稿を快くお引き受けいただきました全国高総文祭推進室長田中慎一様、本当にありがとうございました。

なお、本号についてのご意見、ご要望及び秋発行の次号の原稿寄稿をしたい方、広報部にて随時受け付けております。

(R. G)